

◆ 第 1 次答申（平成 7 年 11 月 27 日）

はじめに

21 世紀は、「個」の時代である。多様な価値観が尊重され、画一化からの脱却が一層進行するものと予想される。青年たちは、他者とは異なる自己の存在を見だし、主体的に生きることを必要とする。自己の個性を主張するにおいては、自己とは異なる他者の存在を尊重し、他者と共に生きる豊かな人間性を欠くことができない。

21 世紀はまた、「選択」の時代である。人は、それぞれの自立に向かって、主体的に選択する力をもつ必要がある。そのためには、基礎基本の充実が不可欠である。基盤を確かなものとすることによって、専門性の深化・高度化が可能となり、新しい世界を築いていくたくましい創造性が培われる。いわば 21 世紀は、これまで以上に「変化と多様化」の時代である。このような時代において、高等学校教育の果たすべき役割が極めて重要であることは言うまでもない。生徒一人ひとりに視点を置き、変化と多様化に対応し主体的に選択して生きる個の確立を促し、未来を切り拓くたくましい創造性と他者を尊重する豊かな人間性を育む教育の展開が必要である。

◆ 第 2 次答申（平成 8 年 10 月 29 日）

はじめに

本構想委員会は、堀川高等学校における教育改革の取組を踏まえつつ、同校を京都市立高等学校 21 世紀構想のパイロット校として位置づけ、第 1 次答申において示した理念と総論的方向づけに基づき、魅力ある新しい高等学校像について審議を重ねてきた。それらをまとめ、第 2 次答申として提出するものである。

1 京都市立高等学校 21 世紀構想パイロット校として、新たな堀川高等学校を創造するにあたっての基本的な考え方

新たな堀川高等学校の教育活動の理念として、「変化と多様化に対応し主体的に選択する力、未来を切り拓くたくましい創造性と他者を尊重する豊かな人間性」の育成を掲げ、その実現に向けて具体的な取組を展開することが求められる。生徒一人ひとりが、豊かな学習体験と生活体験を通して、かけがえのない自己を深く見つめ、育み、主体的に選択して進路を実現していく過程を、教育活動の場面で確立することが必要である。

よく学びよく遊ぶという言葉があるが、自己を律し、厳しく学ぶなかにもゆとりをもつこと、自己を実現するために具体的に行動すること、そして静かに思索することが、青年期において重要な意味をもつ。幅広い経験と真摯な学習が、成長過程に大きく作用し、自立して生きる人間を形成する要素となる。新たな堀川高等学校を創造する目的は、ここに存する。変化の激しい社会にあって、普遍の学び舎を築くことが求められている。

学習活動においては、単なる知識の集積に努めるのではなく、さまざまな形での人とのふれあい等を通じた豊かな経験に基づいて、知識を生きた知恵に結晶する教育の在り方が求められる。その具体化のため、生徒が目的をもって学び、自己を追求することが可能となる多面的な教育システムの構築をめざすことが必要である。

市民の期待と要請に直接応える教育機関として、従来の学校の枠にとらわれない新たな高等学校像を提起したい。

- (1) 生徒一人ひとりの個性を尊重し、興味・関心、適性、能力に対応して、進路希望の実現を図り、生徒の自己実現を支援する教育活動
- (2) 普通科教育の充実と、わが国の科学・文化の担い手を育成するための専門的な学習を展開する新しい学科の設置
- (3) 新たな堀川高等学校の教育活動を支える施設設備の在り方

◆ 最終答申（平成9年12月10日）

最終答申 1

1 変化と多様化に対応した「個」と「選択」の高等学校教育へ

(1) これからの高等学校教育に求められるもの

① 生徒一人ひとりの個性を尊重すること

人が社会の一員として生きるにおいては、人権や福祉の意識、また倫理観の醸成が必要である。生徒の自己実現を支援する観点から、異なる価値観への理解や他者の存在への認識と協同を生み出し、社会性の育成を図る教育活動の展開が求められる。授業はもとより特別活動を含めたあらゆる場面における生徒の学習活動が、人間としての成長に結びつくよう、一層の工夫と配慮を希求する。

② 変化と多様化に対応し主体的に選択する力を育むこと

知ることは目的であると同時に手段である。獲得した知識を基盤として、個々に存在する知識や事象を、必要に応じて選び分けたり結び付けたりする力が必要である。この力を高めるには、生徒自身が多様な経験を通して学ぶ啓発的経験学習や、一定の課題に対して試行錯誤を伴いながら学んでいく課題解決学習等が効果的である。知識の修得を知識の活用に発展させるための経験を積む学習活動の在り方を追求することにより、主体的に判断し選択する力を育成することが求められる。

③ 未来を切り拓くたくましい創造性と他者を尊重する豊かな人間性を育むこと

未来を切り拓くたくましい創造性とは、自己の理想とともに、普遍的な人類の理想を実現する力と、そこに至るため、集団や個人が直面する課題を克服する力を意味する。また、他者を尊重する豊かな人間性とは、自己の主体性の確立を前提として、自己と異なる存在としての他者を認め共生することを意味する。

未来を切り拓くたくましい創造性と他者を尊重する豊かな人間性は、個別に存在するのではなく、極めて深い関連をもつものである。言い換えれば、これらの調和を図ることが教育の使命であると考える。

一層複雑化する 21 世紀の社会にあって、理想の実現を追求する青年に必要なリーダーシップ、また、文化の享受能力や創造力等も、偶然に生まれるものではない。教科指導・生活指導・進路指導等、高等学校における多くの教育機能の有機的な結合が必要である。その結実が、生徒一人ひとりの個性の尊重と、変化と多様化に対応し主体的に選択する力の育成であり、それらを通して、たくましい創造性と豊かな人間性が育まれると考える。

(2) 求められる高等学校像

① 生徒の成長過程を支援する高等学校教育の在り方

高等学校に在籍する時期にはみずみずしい感動や喜びとともに、挫折や不安もあり、高揚と消沈が不連続に出現する。さまざまな行動となって表出される心理状況の変化は、生徒が成長の過程にある証しである。この観点から、各高等学校においては、生徒を理解し、受容する機能を一層高め、時に試行錯誤を伴いながらも生徒が自ら成長していく過程を支えることが必要である。同時に、将来にわたって安全で健康的な生活を営むことのできるよう、十分な配慮が望まれる。

生徒一人ひとりが、学び、鍛錬し、未来を考える場となる高等学校教育の在り方が求められている。

② 「選択される」ことを自覚した高等学校の在り方

生徒のニーズが一層多様化する中、高等学校の在り方を検討する際に重要であるのは、高等学校が、学習する主体である生徒によって選択されるという視点である。高等学校におけるあらゆる教育活動が、常に生徒による評価を受けるという冷厳な事実を真摯に受け止めることが必要である。教育目標、教育方針、また教育計画等の具体化を進め、それらを生徒に提示することによって、生徒自身がよりよい高等学校生活を求めることができるよう配慮しなければならない。

最終答申 2

2 21 世紀を展望した魅力ある新しい京都市立高等学校の在り方

21 世紀を展望した高等学校教育について言うとき、ともすれば、新奇なるものや目新しいことがらに関心の動くことは否めない。しかし、本構想委員会は、さまざまな名を冠せられる 21 世紀がどのような時代になろうとも、教育の基本に変わりはないと考える。むしろ、変わることはない基盤の上こそ教育の理想が開花するのである。教育のもつべき機能とめざすべき目標を示した基本理念を根幹として、若々しい枝が伸び、緑の葉が重なることを望む。

高等学校を卒業した後、進学する者にとっても、社会に出る者にとっても、社会の一員として欠くことのできないものがある。それは、人間としての自由や権利の行使とそれに伴う責任、生命の尊さに対する認識である。それらを育成するためには、高等学校教育において、主体性と社会性、また倫理観が涵養されなければならない。

(1) 学校の多様化と個性化

学校の個性化を進めるにあたっては、高等学校教育の現状と課題についての慎重な分析と検討を行うことが欠かせない。また、各高等学校においては、教育活動の内容を生徒に具体的に提示することにより、生徒の学習意欲を喚起し、生徒が自主的・計画的に学習できるよう、最善の手だてを講じるとともに、それらの情報を事前に提供することによって、入学後の学校生活を円滑に進めるための万全の方策が求められる。

(2) 教職員の指導力の向上

教育は人によってなされる活動である。教育の手段・方法は多岐にわたるが、教職員の指導力が、教育条件総体を支えるうえで最も重要な条件であることは言うまでもない。すべての教職員は、生徒の自己実現への取組を支援することにより、未来の社会の形成者を育むという崇高ないとなみに携わる者としての責務をもつ。

教育が人を育むものである以上、教職員には指導力はもとより、教育者としての姿勢が問われてしかるべきである。すべての教職員が生徒に対し、極めて大きな影響を与える存在であることをいま一度厳しく自覚し、誇りと愛情をもって教育活動にあたることが求められる。

教科・科目に関わる学習活動においては、高い専門性と真摯な研究精神が必要である。また、生徒と日常的に接する点からは、豊かな包容力と優れたリーダーシップが求められる。さらに、学校組織の一員としての見識と協調性が不可欠であり、各高等学校の教育課題についての認識を深め、教育目標達成に向けて連携を図ることが重要である。教職員個々の指導力を高め、学校組織としての力量を向上することが求められる。

そのために、教職員一人ひとりが常に厳しく自己点検や相互評価を行い、個人・教科・学年・学校等の各段階において、指導力の向上に向け、たゆまぬ努力を続けるよう求める。

おわりに

社会変化の著しい今日、学校のみならず、家庭・地域・社会における教育の在り方が問われている。すべてのものごとには少なくとも両面があり、それぞれに価値が内包されている。一見むだと感じるものに、欠くことのできないゆとりの効果がある反面、効率化することによってよりよい結果が期待できる場合もある。

高等学校教育を成立する要素は多様である。それらがいかに組み合わせられるかによって、教育活動の在り方が決定される。望ましい教育の場を創出するために求められるものは、教育条件を整え教育活動を展開する側に立つ者の姿勢と見識である。本構想委員会が高等学校教育の基本理念として掲げている豊かな人間性とたくましい創造性や、変化と多様化に対応し主体的に選択する力は、教育に取り組む者にとっても極めて重要であろう。成長過程にある生徒の自己実現を、正しく支援しなければならないからである。